

## 平成28年度豊橋市病院事業決算の概況

収支状況については、初診時選定療養費の引き上げ等の影響もあり、延患者数の減少はあったものの、看護師をはじめとする医療スタッフの確保・定着のほか、専門性の高いがん治療や地域連携の強化による積極的な重症患者の受入れなど、急性期病院としての取組みにより、1人あたりの診療単価が増加したことで、医業収益が1.3%の増となりましたが、給与改定などによる給与費等の増加により、医業費用が2.7%の増となりました。この結果、収益的収支（税抜き）は6億7,885万円の黒字、経常収支についても7年連続となる黒字となりました。当年度未処分利益剰余金のうち、6億7,800万円を減債積立金に積み立てた後の繰越利益剰余金は10億2,349万円となりました。

主な事業としては、地域がん診療連携拠点病院として、最新の治療装置と検査機器を備えた高度放射線棟を開設するとともに、地域全体の医療水準の向上を図るため、同棟の2階に、シミュレーション研修センターを整備したほか、近年の内視鏡手術の増加や最新の医療技術に対応するため、平成31年度の開設に向け、手術センター棟の整備に係る基本設計及び実施設計に着手するなど、東三河の地域医療を支える中核病院として、より一層の診療機能・診療体制の充実に努めました。

さらに、これまでの取組みが評価され、平成28年4月から、DPC医療機関群Ⅱ群病院（大学病院本院に準ずる高度な医療を提供する病院として全国で140病院）に指定されるとともに、平成22年度以降連続した経常収支の黒字や地域医療支援病院としての取組みにより、平成28年6月に、自治体立優良病院表彰（全国で12病院）を受賞することができました。

